

第一章 薔薇の毒、感度実験

ナース「これより感度実験を開始します」

マリナ「実験に付き合えば、妹を解放してくれるんでしょうね」

ナース「私はそのように伺っております」

マリナ「仕方ない……やるなら、さっさとやりなさい」

ナース「では、まずおちんぼの勃起実験から参りましょう。マリナ様のおちんぼが、どのような刺激で勃起に至るのか確認させていただきます」

マリナ「い、いちいち言わなくていいわ」

ナース「決まり事ですので、ご容赦ください。それでは、**おちんぼを触らせていただきます**
す」

マリナ「始まるのね……いいわ、来なさい」

ナース「最初は裏筋を指先で刺激」

マリナ「んっ……んんんっ……あなた、結構手慣れたのね……」

ナース「実験はマリナ様が初めてではありませんから。それよりも、感じているようですから、どう気持ちいいのか教えていただけると助かります」

マリナ「んくっ、んはう……ふ、普通に刺激があるだけよ……」

ナース「まだ余裕があると見て構いませんか？」

マリナ「そ、そうだけど……あっ……ふうっ……」

ナース「では、刺激を強めていきましょう。亀頭をさわさわと撫でるようにマッサージします」

マリナ「んはぁ……っ、ふぁぁぁ……っ」

ナース「喘ぎ声が大きくなるのを確認。裏筋よりも感度が高いようですね」

マリナ「そ、それは……んんっ、もともと……あっ……敏感なところだから……っ」

ナース「例に漏れず、亀頭は敏感だということですね。そうなりますと、カリ首も敏感でしようか。おちんぽを握らせていただきます」

マリナ「あぁあっ……！ シコシコするなら、そう言って……あぁあっ……！」

ナース「ムクムクしてきましたね。やはり、カリ首を中心にシコシコしごくのが最も効果的なようです」

マリナ「い、言わなくていいから……ああっ、んっ……!!」

ナース「完全に勃起を確認。サイズを測定します」

マリナ「はあはあ……こんなふうに、あれこれ試されるのね……」

ナース「**サイズ、測定終了。続けて手コキに移りますね。**もちろん、カリ首を中心に」

マリナ「あっ、んっ……んんんう……だから、いきなり始めるんじゃないわよ……あんっ……んう……」

ナース「おちんぼが気持ちよくなれば、そのようなことは気にならないと思うのですが」

マリナ「べ、べつに、んあ……性欲を発散しに、きてるんじゃないや……ああう……ないのよ……んんっ……」

ナース「性欲に流されてしまうほど感じてくれたほうが助かるのですが……実験を終えて射精に至らなかった被検体はいませんから、心配ないでしょう」

マリナ（この先、なにが待ってるというの……？）

ナース「怯えた表情を確認……しかし、期待の目でもあったように思えます」

マリナ「き、期待なんて……あああ……！」

ナース「手コキの速度を加速させていただきます」

マリナ「んっ、あっ……ああっ……んっく……！」

ナース「身をよじり始めましたね。これも記録しておきますが、さらに速度をあげたほうがよさそうですね」

マリナ「い、いまでも、十分速いんだけど……」

ナース「マリナ様には物足りないようですから、さらに激しくします」

マリナ「あっ……！ んあんっ……！ あっ、んっ……！」

ナース「カウパー線液の分泌を確認。これも絡めておちんぼをシコシコしていきます」

マリナ「使わなくなっていていいでしょ……んあっ、ああっ、んんんっ……！」

ナース「まだ我慢ができるようですね。このままですと、先生が満足する記録を取れませんか……」

マリナ「んひゃあう……！ ああっ……ヌルヌルして……あああっ……！」

ナース「もっと喘いでください。私もしっかりと職務を果たしたいので」

マリナ「くうっ、んくっ……あっ、んんっ……出っ張つてるところばかり……んんっ！」

ナース「ヌルヌルで、にちゅにちゅの状態になってきているのですが、それでも我慢なさいますか……では、手コキ以外の刺激も追加しましょう」

マリナ「手コキ以外って……」

ナース「耳元を失礼します。こちらへの刺激と言葉責めが入ったほうが、マリナ様はお好みかもしれませんので」

マリナ「み、耳で感じるような……んんあ、人間じゃあ、ああう……ないわよ……っ」

ナース「試してみなければわかりません……ああむっ、んちゅっ、じゅるるっ、んじゅっ……れろろろ、れるっ、んれるっ」

マリナ「ああっ、はあああっ、んあああっ、あああああっ……んくうっ……っ！」

ナース「れるっ、んじゅうるっ、れるるるっ、れるっ、んれるっ……だいぶ、喘ぎ声がいやらしくなつて参りましたよ……はむっ、んちゅっ、れるるっ、んれるうう」

マリナ「くあああっ、んあああう、はんっ、あああああっ……！ おみみい、ああああっ……！！」

ナース「れるっ、んちゅっ……やはり、耳にも性感帯がありましたね……はむっ、んじゅっ、れるっ、んちゅっ……だいぶ、変態使用のお身体なようです」

マリナ「だ、誰が変態……んひやあっ……！ ああ、あ、あっ、んっ、は、はっふう……！！」

ナース「かわらしい喘ぎ声ですよ、マリナ様……れるちゅっ、んちゅ、れええるっ……れるろろっ……ちゅっ、んじゅうっ……」

マリナ「はあ、あああっ、んああっ！ はふっ、ああっ！ んっ！ あああっ！」

ナース「カウパー線液の分泌が止まりませんね……私の手がマリナ様のいやらしいおつゆに塗れてしまっています……れるっ、んれるっ」

マリナ「くふああっ、あああう……！ そういうのは、言わなく、てもお……はあ、ん

んっ、ああっ、んああああっ……！」

ナース「しかし、言って差し上げたほうがおちんぽがビクビクしてくれますから……んちゅっ、ちゅっ……ご自身でも、おちんぽが反応しているのを感じていますよね」

マリナ「わ、わかる、けどお……あんっ、ひあっ、ひうっ、あああっ……！ わざわざ、申告なんてしない……あっ、んああっ……！」

マリナ（普通に気持ちよくなってる……このナース、結構どころじゃないテクニシャンじゃない……）

マリナ「んあっ、くっ……！ ふああっ、あんっ……っ！ ひあああっ……！」

ナース「いいですね……んちゅっ、れるうっ、れろろろっ……そういうお声を、もっと聞かせてください……先生にもいい報告ができます……んちゅっ、れるっ……そのためでしたら、なんでもしますから……んふうっ、れるうっ……もちろん、感度の高いところを自己申告してもらっても構いませんよ……んう、れろろっ、れろお、じゅるるっ」

マリナ「ああっ、んんっ……！ 私から教えてもらうよりも……あくっ……自分で探し当てたほうが……はあ、はあ……いい記録になるんじゃないの……んくうっ、ああっ……！」

ナース「それもそうですね……では、亀頭にだけ手をかぶせて……」

マリナ「あつ！ あ、んあつ！ ああああつ……！ そ、それつ、ダメえつ……！ おちんちんの先つぽばかり、責めないで……っ！」

ナース「やはりここでしたか……はあむう、んちゅう……あつさり見つかつてしまつて拍子抜けですが……んちゅう、れうえう、れるじゅつ……マリナ様がお好きな、亀さんの頭だけジクジクのニルニルにしてあげましょう……ああむっ」

マリナ「ああっ、ひいうっ、ふああっ、あくうう……！ んひっ、はああ……！ おちんちん、ダメっ……！ 亀頭、溶けてなくなっちゃう……っ！」

ナース「気持ちいいからと言って、そんなに暴れないでください」

マリナ「これで、動くなつて言うほうが……」

ナース「まだ、私は本気を出していないんですから」

マリナ「十分、グリグリ手のひらでいじめてきてるじゃない……っ！」

ナース「そう感じていましたか……あむっ、んちゅう……私はどうにも加減というものがわからないらしく、実験の際は軽めの力加減から始めるように言われているんです」

マリナ「そ、そんなん、で……あああうっ！ よく、ナースが……ふうう……務まる、

はあはあはあ……わねえ……んはっ、はああう、んああっ……!!」

ナース「あいにく、患者さんには受けがいいんです。マリナ様にも、して差し上げましょう。普段通りの私の力で」

マリナ「あああああああっっ！ んあっ！ んくっ！ んああっ！ あああああっ！ おちんちん……おちんちんがあ……っ！」

ナース「おちんちんが、どうしましたか？」

マリナ「ダメダメダメダメダメっ！ おちん、ちん……ああああああっ！ 壊れ、ちやう……はあ、んあっ、あああああっ!!」

ナース「ご心配には及びませんよ。この程度で、おちんぽは壊れたりしません」

マリナ「そ、それが、事実だとしてもお……ひああっ、あああっ、んあああう、あっくうう……っ！ 私にとっては……壊れちゃうくらい……し、刺激、が……強く、て……っ！」

ナース「腰が浮いてしまいましたね。陰囊がキュッと締まって、身体が射精の準備をしてしまっているようです」

マリナ「だから、いちいち解説は……んああっ！」

ナース「そろそろいいでしょうか。記録をしないと、忘れてしまいそうですし」

マリナ「はあ、はあ、はあ、はあ……終わった、の……？」

マリナ（快感地獄から、ようやく解放された……これで、妹を解放してもらえる……）

ナース「では、ここまでの記録も終わりましたので、尿道に薔薇の毒を注入しましょう」

マリナ「はあっ……！！？　薔薇の毒……！！？　ま、待ちなさい……尿道につて、どういふ……」

ナース「こういうことです」

マリナ「**んんんっ……っ？**　お、おちんちんの中に、器具が入って……っ！」

ナース「この薔薇の毒には媚薬効果があります。ですから、マリナ様はいまから敏感になつて、おちんぽがもつと気持ちよくなつてしまいます」

マリナ「ぬ、抜いて……いますぐ、この変な器具を抜いて……っ！」

ナース「変な器具ではありません。薔薇の毒を注入するための、立派な医療器具です」

マリナ「十分、変な器具よ……！ んあぁっ……あ、ん、あああぁ……んんう……っ！」

マリナ（どんどん入ってくる……身体も熱くて……）

ナース「規定量の注入が終わりました」

マリナ「はぁ、はぁ、はぁ……」

ナース「注入が終わりましたので、再び手コキに移ります。あ……私は手袋をはめさせてもらいますね。ここからは、手袋手コキになります。きっと、亀頭が特別敏感なマリナ様なら好きはずです。では、失礼して……」

マリナ「んいいいっ……！ 刺激が、強すぎ、る……っ！」

ナース「握っただけで、この喘ぎ声ですか。薔薇の毒との相性もいようですね」

マリナ（触られたただけなのに、おちんちんがビクビクしちゃう……）

ナース「シコシコしていないのに、カウパー線液まで出てきますよ。薔薇の毒があまり逆流しないといいんですが」

マリナ「はぁはぁ……私に言われても……あなたが注入した変な薬のせいで、こうなってるんだから……はぁはぁはぁはぁ……」

ナース「マリナ様」

マリナ「なによ……」

ナース「あまり興奮なされると、必要以上に手が動いてしまう可能性があります。淡々と責めるからこそ実験に重用されている身ですので、興奮されるのは困ります」

マリナ「させてるのは、そっちでしょう……」

ナース「決して、そこまで『はあはあ』させようとは思っていなかったのですが……仕方ありません。平常心での手袋手コキを心がけましょう」

マリナ「んくあっ……！ ああっ、んああっ……！ はああう……っ、はあはあ……いあっ……んああんっ……らめえ……おちんちん、いじらないでえ……！」

ナース「カウパー線液のさらなる分泌を確認。最早、わざわざすくい取るまでもないほど濡れています。礼儀として少し搾っておきましょう。根元をギュッと締めて、**このまま根元まで……**」

マリナ「**やめ、てえ……ひう、ああ、んはあ、あああ……っ！**」

ナース「やはり、たっぷり出て来ましたね。薔薇の毒の逆流量も許容範囲です。これを指

先と手のひらにクチュクチュ絡めて……マリナ様がお好きな、カリ首を中心にしごいていきますね」

マリナ「んくつつ！ はああっ！ あああっ！ ひあう！ んあっ！ あああう！ も、もう限界、だからあ……はあはあ……つつくうっ！」

ナース「その割には、腰も浮いていませんよ」

マリナ「そんな力すら残っていないだけよ……ほお、ほお……」

ナース「そうでしたか、失礼しました。では、射精されてしまう前に、また耳の方も刺激させてもらいましょう……ああむっ、んちゅっ、れるっ、れるるるるっ！」

マリナ「あああっ！ んくつつ！ ああっう！ んんんっ！ おちんちんだけでも、限界なのに、耳までえ……ひいひいひいひい……っ！ それ、に……つつくっ……勢いがよくなってるし……あなた、絶対に楽しんでるでしょう……っ！」

ナース「あくまでも、指示された通りの実験をしているだけですよ……れろろろろっ、れるっ、んれるっ……平常心は保っているはずですよ……れるちゅっ、ぢゅりゅりゅっ、ぢゅりゅうううっ！」

マリナ「嘘よ……っ！」

ナース「マリナ様は、そう思われるんですね。ですが、私は興奮を抑えられていますよ……はむっ、んちゅう、れろっ、れるるっ、れろろろろっ……もしかすると、薔薇の毒の効果で私が興奮しているように感じているのかもしれませんが……はぷっ」

マリナ（射精したい……でも、このナースのことだから、出そうとすれば焦らしてくるはず……我慢しかない……）

ナース「れるっ、んれるっ……れろっ、れろろろろっ……！　マリナ様のお耳は、これまでの被検体よりも感度がいいですね……んれるっ、れるっ……これなら、先生も喜ぶでしょう……はあむっ、んちゅうっ、れるう……！」

マリナ「そ、その先生とやらは……ああああう！　どこまで実験すれば、気が済むの……はあ、はあ……あなたとしても、ほお、ほお……先生が満足する記録が取ればいいんでしょう……」

ナース「ぢゆるるるるるるっ……んぷあっ……極論を言えばそうなりますが、よりたくさん記録があったほうが喜びますから……あむっ、んじゆるっ、れるるるるっ！」

マリナ「そん、なあ……はあはあ……だったら、射精させて……射精すれば、終わるんでしょ……」

ナース「そうですね。私に課せられた仕事は射精までですから」

マリナ「じゃあ、射精してあげるから……そこを細かく記録に取りなさい……それで、終わる、でしょ……んああっ、ああああ……!!」

ナース「勝手に射精するのですしたら、もっとキツイ実験をすることになります」

マリナ「くっ……!!」

マリナ（やっぱり、そうなるのね……でも、こんな気持ちいいの、耐えられない……おちんちんが、射精したいってずっと叫んでるみたいだし……）

ナース「わかっていただけたようですね。しかし、私も記録を残したいので、次の手を打たせてもらいましょう。ひとさし指をパツクリ開いている鈴口にねじ込むようにして……」

マリナ「あああああっ……!!　そこは、刺激しちや、らめな、ばしょお……!!」

ナース「この状態で、亀頭だけグチュグチュしますね」

マリナ「あっ、あ、んっ、あっっ、はあっ、んんんっ!　らめえ……出ちやう、出ちやう……っ!　それ、出ちやうからあ……!!」

ナース「いいお声です。もっと聞かせてください」

マリナ「いいとか、言われ、てもお……ああ、ああんっ、んんっ、んっ……んおっ、おお
おっ……ほお、ほお……こっちは、出ちやいそう、なのにい……」

ナース「快感に身をよじって『出ちやう』と繰り返すマリナ様、すごく素敵ですよ。しっ
かりと、記録に残しますね」

マリナ「残さなくて、いい……んあっ！ ああっ！ らめっ、らめっ……！ もうっ、も
うっ……！」

ナース「では、竿の方をシコシコする形に変えましょう」

マリナ「な、なんで……っ！」

マリナ（出せると思ったのに……ナースに責められて射精すれば、終わりなのに……）

マリナ「いじわる、しないで……出そうだったんだから……」

ナース「それでは、マリナ様を喜ばせるだけになってしまいます。あくまでも、私が喜ば
せたいのは先生ですから。しかし、竿をシコシコするのも、いまのマリナ様にはかなり効
くと思いますよ？」

マリナ「そ、そう、だけどお……」

ナース「それに、心のどこかではもつとシコシコしてほしいと思っっているはずですよ。これまでの被検体もそうでしたから」

マリナ「ま、間違っても……おおおっ！　んおっ！　そんなふうには……はあ、はあ……いやあ……！　出りゆつ、出りゆうつ……！」

ナース「やはり、これでも射精しそうですね。もつと、クチュクチュのニユルニユルにしてあげますよ」

マリナ「あああああ……！　んあああ……！」

ナース「このぶんですと、根元のほうをしごいただけでも出そうですね」

マリナ「はあはあはあ……っ！」

マリナ（先っぽ……先っぽが一番いいのに……っ！）

ナース「マリナ様の物欲しそうな顔が確認できました。ご希望通りの先っぽを、いまからいじって差し上げますよ。記録は十分に取れましたから、もう焦らすことはありません」

マリナ「ほ、本当でしょうね……」

ナース「約束しましょう。その代わり、刺激が強めになるのは覚悟してください」

マリナ「んんんっ……！ あ、あっ、んあう、あああああっ！」

ナース「身体がのけ反っていますよ、マリナ様」

マリナ「だって、だって……亀頭があ……あああああっ！」

ナース「もう射精しているのではないかと思うほど震えていますね」

マリナ「らめえ……おかしくなりゆう……らめらめっ……むりい、もう無理い……出ちやう、出ちやうっ……イクっ、イクイクっ……！」

ナース「焦らしはしませんが、いまが一番気持ちいいところですよ」

マリナ「我慢しろって、言う、の……ほおほお……っ！」

ナース「実験に付き合っていたいているお礼みたいなものです」

マリナ「そんなお礼、いら、にやい……もうイクっ……イクって言ったら、イクのお……ほおほおほお……っ！」

ナース「では、射精なさってください。いいですよ」

マリナ「イクっ……おちんちんイクっ、おちんちんイクっ……！　　出りゅ、出りゅう、出りゅう……！　　イチちやうううううううううううううううっ！！　　ああああああっ！！」

ナース「んっ……射精を確認。勢いよく出ていますよ」

マリナ「はあはあはあはあっ……んんんっ！」

ナース「顎の反り、背筋の反り、足先の力みを確認」

マリナ「いやああっ……ああああああっ……射精、止まらにやいい……っ！」

ナース「想定量以上の射精です。やはり、薔薇の毒との相性がいいからでしょう」

マリナ「はあはあはあ……こんなに出るの、初めて……」

ナース「そうですね。薔薇の毒がなければ、こんなには出ないでしょう」

マリナ「大変なときに言われる正論ほど、腹立たしいものはないわね……はあ、はあ……」

ナース「事実ですから」

マリナ「事実だとしても……っ！」

マリナ（でも、気持ちよかった……こんなに気持ちいい射精も初めて……出るまでが地獄だったけど……）

ナース「では、射精が終わったようなので……」

マリナ「なっ……またおちんちんを握って……なにをする気なの……」

ナース「尿道に残っている精液を搾り上げます。カウパー線液を絞ったときと同じ要領ですわね」

マリナ「んんんんっっっ！　い、いまは、特別敏感なんだから……っ！」

ナース「ドロっとした精液が出てきていますよ。薔薇の毒と私の手コキで、精巣が張り切った証拠ですね」

マリナ「あああああ……っ！　早く、終わりにして……っ！」

マリナ（死ぬ……死んじゃう……おちんちん、感じすぎ……っ！）

ナース「ここは重要ですから、力を入れてじっくり搾りますよ」

マリナ「ああああああっ……っ！」

ナース「カリの出っ張りにも指を這わせて……」

マリナ「んああああああっ!!」

ナース「終了です」

マリナ「はああはああ……これで、全部終わりよね……」

ナース「私に課せられた実験は終了……おっと、まだ精液が滲み出ていますね。搾り損ねたようですから、もう一度搾ります」

マリナ「ま、待ちなさい……どれだけ絞っても、少しは残る……んんっ!」

ナース「まだ残っていましたね。先ほどと同じように力を入れていきますよ」

マリナ「あああああっ!! すぐに、終わらせて……っ!」

マリナ（このナース、本当に加減を知らないのね……っ!）

ナース「んっ……これで搾り取れたでしょうか。すっかり、おちんぼの周辺がドロドロですね。とっても淫靡でございます」

マリナ「言われなくても、わかってるわよ……」

マリナ（終わった……これで、妹を助けてあげられる……その前に、ちゃんとキレイにしておかないと……こつちが心配かけちゃいけないし……）

ナース「ありがとうございます、マリナ様。おかげで、いい実験記録になりそうです」